SDGs新聞	GREEN×EXPO 協会 （公益社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会）

イベントのごみゼロ大作戦！

SDGsラジオを読んでみよう！

お祭りやイベントに行ったときに、ゴミ箱がいっぱいになっているのを見たことはありませんか？
たくさんの人が集まるイベントでは、ゴミを減らし、ものをむだにしないことがとても大切です。
横浜でひらかれる「GREEN×EXPO 2027」では、イベント全体でものをむだにせず、ゴミを減らすための工夫がたくさん取り入れられます。
木や紙など植物からできた材料をできるだけ使ったり、プラスチックを使う量を減らしたり、
会場にはリサイクルステーションを設けて、ゴミをきちんと分別できるようにします。
さらに、会場をいろどった花や植物も、欲しい人に配ったり、たい肥にしたりして、できるだけいかしていく計画です。
ゴミを減らし、ものをむだにせず、使い終わったものも次につなげていく。
未来のためにできることは、毎日のくらしの中にもたくさんあります。どんなことができるか、考えてみましょう。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



画像参照：3Rのイメージ

たくさんの人が集まるイベントでは、食べものの容器やペットボトル、パンフレットの紙など、たくさんのゴミが出ます。また、イベントの会場づくりや工事のときなど、イベントをつくるときにもゴミは出ます。そこで大切なのが「3R（スリーアール）」という考え方です。3Rとは、ゴミそのものを少なくする「Reduce（リデュース）」、まだ使えるものをくりかえし使う「Reuse（リユース）」、使えないものを資源として生まれ変わらせる「Recycle（リサイクル）」という3つの行動のことです。横浜でひらかれる「GREEN×EXPO 2027」でも、この3Rを大切にし、ものをむだにせず、ゴミを減らすためのさまざまな工夫が行われます。たとえば、会場内の飲食店では食器や箸をくりかえし使ったり、自分用の水とう「マイボトル」の使用をすすめたりして、使いすてのものをできるだけ減らし、ゴミを少なくする取り組みが進められます。


画像参照：リサイクルステーションのイメージ

また、GREEN×EXPO 2027では、木や紙などの再生可能な資源や、再生紙など一度使ったものからつくられた材料を最大限使い、プラスチックの使用を減らします。それでも出てしまうゴミは、できるだけリサイクルにつなげるために、会場のリサイクルステーションで種類ごとにきちんと分けます。そして、ゴミ全体の65%をリサイクルすることを目標にしています。さらに、GREEN×EXPO 2027ならではの取り組みが、花や植物の循環です。会場で役目を終えた植物は、来場者に配ったり、公共施設で再び使ったり、たい肥にしたりすることが計画されています。ゴミを減らし、ものをむだにせず、使い終わったものも次につなげていく。こうした工夫を積み重ねることが、地球の資源や環境を守り、これからも豊かにくらせる未来につながっていきます。

キーワード

3R（スリーアール）
ゴミを減らし、資源を大切にするための考え方です。まずはゴミをできるだけ出さない「リデュース」から取り組むことが大切です。

再生可能な資源
使っても、またつくったり育てたりすることができる資源のことです。木や紙など、植物をもとにしたものもそのひとつです。

たい肥
植物などをくさらせてつくる、土の栄養になるものです。植物が育ちやすい土づくりに役立ちます。

対象ゴール



みなさんにできること！

資源を大切にするために毎日の中でどんなことができるか？考えてみましょう。

おさらい	●ゴミを減らし、まだ使えるものはくりかえし使い、使えないものは資源として生まれ変わらせることを「3R」という。 ●GREEN×EXPO 2027では、ものをむだにせず、ゴミを減らすための工夫が進められる。 ●会場では、役目を終えた花や植物も、配ったりたい肥にしたりしてできるだけいかしていく。

メモ

SDGs ラジオ